国際社会学部
2025 年度後期日程入学試験問題
小論文
正解・配点・解答例（200 点満点）

設問1　〔各10点、計40 点〕
【解答例】

ice	言語の壁
mud	筆者の名前、母語、発音、肌の色、国籍などに与えられた偏見
dry leaves	内面化された偏見・恥、セルフ・スティグマ
fertile soil	希望、尊厳、決意、自信などの種が育つ環境

設問2　〔各20点、計40点〕
【解答例】
下線部(1)：フィリピンと日本の両文化を継承するという、文化的豊かさや資源としての特典・恩恵（39字）
下線部(2)：フィリピンとの経済格差から、日本で享受できる衣食住環境や人生における選択肢の幅や機会の有無等の特権（49字）

設問3　〔解答３つ：各20点、計60点〕
【解答例】
学校の現場で多言語や多文化への配慮・対応が不十分なので、多様なバックグラウンドを持つ児童が孤立しやすく、高等教育へのアクセスが実質的に制限されてしまう問題。（78字）

身体的・文化的な差異を優劣と捉え序列化する人種主義的な考え方が社会に広く蔓延している一方、それを改める取り組みが不十分であること。（65字）

日本で育っていても、日本国籍を有していないと、追加の手続き（在留資格の維持など）や、教育や就業にあたって追加書類を集める必要など、制度的ハードルがあること。（78字）

片親が外国籍であると、それにより就業機会が限定されがちなため、日本籍の親が仕事をできなくなると経済的基盤を失い、家族が一気に困窮しうること。（70字）

両親の一方が、日本人の配偶者として永住権保持者として生活している場合、配偶者の死去により、在留資格を失い、子供と一緒に生活できなくなる可能性があること。（76字）

国レベルで移民・難民の受け入れに備える政策が十分になく、国際移動は個人の裁量によるものとされ、子どもの教育など付随する問題も自己責任の範囲に帰されていること。（79字）

日本語が母語でない、女性である、特定の文化的背景をもつなど、異なる形で社会的な差異を生む要素が重なることで社会的な困難さが増す問題に対策がとられていないこと。（79字）

設問4　〔60点〕
【解答例】
今日の日本で、学校の現場などで多様なバックグラウンドを持つ児童やその保護者が困難に直面する背景に、ここは日本だから外国人には日本の習慣や文化に慣れてもらうのが当然だという態度があると思う。しかし日本では当たり前として通っていることでも、世界の多くの国の常識では理不尽であるとみなされることが多々ある。多様なバックグラウンドを持つ人たちを助けるためには、このような悪弊は積極的に改めるべきだという通念を常識化することが必要だ。そのために、私は社会常識を直接なターゲットとする運動を起こしたい。高校や大学の友人など身近な者をかき集め若者中心の運動組織を作り、地域の人がたくさん訪れるイベントにおいてパフォーマンス（劇）を実施するなど啓蒙活動を行い、それをソーシャルメディアで紹介し、どの通念が悪習や障害となっているかを周知させ、悪習は改めるべきとの通念が広く共有されることにつながる活動を行いたい。
（397字）

日本では現在、人種的偏見や差別に対する法律、例えば罰則規定を含む形でそれらを禁止するものが欠けている。現在あるヘイトスピーチ規制法は、罰則がない理念法にすぎない。私は、学校の友達や地域の人とともに署名活動や記者会見を行い、差別禁止法の制定にむけて世論に影響を与え、それを通じて政府や国会議員を動かしたい。また、法的に禁止できない無意識な差別もあるので、それらを考える機会を家族や友人など、身近な者から始め、徐々にその輪を広げていくことで、社会習慣を変えていきたい。大学で学生中心のグループを作り、ボランティア活動として地域の幼稚園・小学校などの場で、問題を一緒に考える会を実施したい。さらに、禁止法を求める活動と無意識な差別を減らす啓蒙活動の双方をソーシャルメディアで公開し、同様の活動を促すことで、同世代の若者の間で運動の輪が拡大するように、さまざまな手段を活用し、具体的な成果を上げていきたい。
（399 字）